

第2回大阪府食の安全安心顕彰制度 大阪府知事賞

大阪いずみ市民生活協同組合

【食の安全性の確保の取組】

生活協同組合が大切にしている「食の安全・安心」を支える拠点として、大阪いずみ市民生活協同組合は1987年2月より検査部門として大阪府で初となる消費者自身の手による商品検査室を開設し、微生物検査をはじめました。2010年7月からは、テクノステージ（和泉市）に「コープ・ラボ」（商品検査センター）を開設し、既存検査の品質向上や効率化をすすめ、食品アレルギー、重金属検査、産地を特定する微量元素測定などさらに検査機能を拡充させ、年間約2万8千件の検査を行っています。



【食中毒の予防啓発・食品の体験学習等】

コープ・ラボは、検査室が全面ガラス張りであり、外からも検査がわかる構造となっており、検査の内容がわかるパネルの設置や、地域団体や小学校の社会見学等の受け入れ、実際に体験できる手洗い実験や味覚テスト、糖度テストなどを行っています。さらに同組合が公開している品質管理だよりにおいて、検査結果の公開や食中毒の予防啓発も行っています。



【食育活動】

食品安全プログラムのコミュニケーション企画として、意見交換会や勉強会を開催したり、生産者との交流として田植え体験や生産工場見学をはじめ、生産者に消費者の声を届けるなど、フードチェーンを意識した食育活動を行っています。

【講評】

食品の検査や食中毒予防啓発をはじめ、消費者目線をもった様々な活動によって、府民の食の安全性や食に関する信頼性の確保に大きく貢献している点が高く評価されました。